

&lt;単元・題材名等&gt;

「ぐんぐん そだて わたしの 野菜い」

- ・Windows タブレット
- ・ロイロノート・スクール
- ・Cisco Webex Meetings

ねらい

野菜の育て方を交流する活動を通して、自分や相手の育て方の良さや自分の成長に気付くことができる。

## 主なICTの活用方法

- ・オンライン会議システム（Cisco Webex Meetings）を使って意見交流する。
- ・協働学習支援ツール（ロイロノート・スクール）で意見を発表したり、質問したりする。

## ICTを通じて育成する資質・能力

- ・ロイロノート・スクールを活用して、児童が育てた野菜の育て方の手順やポイントについて、自信をもって他者に伝えることができる。
- ・普段交流することができない相手に自分の考えや思いを伝えることで、自分自身の成長に気付くことができる。

## 実践の概要

本単元は、一人一人の願いを基に育てる野菜を決め、栽培していく。栽培の様子を観察して記録したり、生長の様子に合わせて様々な世話をしたりしてきている。学校規模が小さいため、多くの仲間の取組から多様な思いや考えにふれ、自分自身を見つめられるようにするために、他校の2年生と自分の野菜の育て方の手順やポイントを伝え合う活動を位置付けるようにする。

本時の導入では、互いの鉢（畑）の野菜の様子を映す。その中で、気付いた共通点や相違点から、願いをもち、互いの野菜について知りたいという思いを強めていく。疑問に思ったことや知りたいことを質問したり、自分の野菜やこれまでの観察の記録（写真や学習プリント等）を示しながら順序立てて説明したりする。自分の思いやこれまでの努力を他校の仲間に伝えきること、これまでの自分の働きかけのよさを自覚し、自己のよさや可能性に気付くことができるようにする。

## 児童の学びの様子

- 移動式のカメラを使うことで、自分が伝えたいことを示しながら説明することができた。また、相手側も、自分たちが見たい部分を伝え、カメラを動かしてもらうことで、事前に考えた説明以上の内容を互いに共有することができた。
- 普段、関わるのが少ない他校の仲間に、自分が栽培してきた野菜への思いや自分の働きかけ、育て方のポイント等を十分に伝えきる時間と場を保証したことで、子どもたちは、自己の良さや可能性に気付くことができた。また、その後、交流したことを基に主体的に野菜に関わり続けることができた。



## 指導のポイント

- ▶願いと見通しをもって本時の活動に向かうことができるように、導入で何をどのように示すのかを明確にしておく。そのために、子どもの興味・関心や困り感を把握しておくことが重要となる。
- ▶自分の思いや考え等を十分に話すことができるような場を保証する。「伝えたい」「聞きたい」と強く願い、交流することができるように、自分のことと関わらせて話したり、疑問に思ったこと等を質問したりしている姿を十分に価値付け、必要に応じて、全体へ広めていくことは効果的である。